

津田塾大学 数学・計算機科学研究所報

23

第12回

数学史シンポジウム

(2001)

2002

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

まえがき

津田塾大学 数学・計算機科学研究所主催の「数学史シンポジウム」も回を重ね、第12回が2001年10月20日、21日の両日、津田塾大学5号館で開催された。この研究所報23号はその報告である。

講演をし、原稿を書いて下さった方々に厚く御礼申し上げます。

なお、浦川肇氏が「変分法事始」と題して講演されたが、御多忙のため原稿がいただけなかった。また、吉沢尚明氏が「(Newton の) 楕円軌道定理の証明について」という題で講演される予定だったが健康上の理由で取消となった。いずれも次回のときに期待したい。

2002年3月20日

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

杉浦 光夫

笠原 乾吉

長岡 一昭

目次

| | | |
|---|--------|------|
| Steinitz's Theorem and Zorn's Lemma | 足立 恒雄 | 1 |
| Banach-Tarski の逆理とその周辺、特に Tarski の 円・正方化問題について | 森本 明彦 | 8 |
| 特異点解消定理—広中の証明は非構成的か— | 前田 博信 | 3 2 |
| 物理学との相互作用による数学の発展史 | 岡本 清郷 | 4 1 |
| JÓZEF MARCHINKIEWTCZ と二十世紀の実解析 | 猪狩 惺 | 5 2 |
| 18 世紀—19 世紀初頭の「代数解析」の意味について | 中根 美知代 | 6 2 |
| 平安朝の数学、「口遊」を再読して | 清水 達雄 | 7 4 |
| 群の表現の指標について（経験よりの管見） | 平井 武 | 8 4 |
| ヒルベルトの第 12 問題と多変数関数論 | 高瀬 正仁 | 9 5 |
| 保型形式の哲学と群上の調和解析 | 佐野 茂 | 10 0 |
| 19 世紀後半期における Fractional Calculus の展開 | 佐藤 憲一 | 10 5 |
| いわゆる「ラグランジュの定理」について | 赤堀 庸子 | 13 3 |
| 大坂専門学校と札幌農学校の数学教育 | 堀井 政信 | 14 4 |
| 数学的連続と形而上学的連続 | 村田 全 | 15 5 |
| SOME ASPECTS ON INTERACTIONS BETWEEN ALGEBRAIC NUMBER THEORY AND ANALYTIC NUMBER THEORY | 三宅 克哉 | 16 3 |
| Some of Vito Volterra's Legacy | 飛田 武幸 | 19 8 |